

# 現代エスノグラフィーの理論と実践(6)

## ——マルチサイテッド・エスノグラフィーの可能性——

藤田結子 (明治大学)

### 1. 目的

本報告の目的は、マルチサイテッド・エスノグラフィー(multi-sited ethnography, 以下 MSE と略)を社会学的研究に応用する意義について考察することである。MSE とは、人類学者ジョージ・E・マーカスによって提案された、複数の場所で生じる現象を追跡する調査法である。この方法の1つの重要な意義は、複数の現場(sites)の関連性やつながりを記述によって構成することで、グローバル化する世界を捉える点にある。また、これに似た方法として、社会学者マイケル・ブラウオイによって提唱されたグローバル・エスノグラフィー(以下 GE と略)がある。本報告では、この2つの方法を比較しつつ、MSE を社会学的研究に応用する際にどのような利点・問題点が生じるのかについて、理論的な側面と実践的な側面から考察を試みる。

### 2. 方法

方法として、主に MSE に関する先行研究と、報告者が実施した2つの研究を基に考察を行う。後者は、(1)東京からニューヨーク・ロンドンへの「人の追跡」、(2)複数のグローバル都市における「人の追跡」「モノの追跡」という MSE の手法を応用した調査である。

### 3. 結果

国民国家を重要な分析的枠組みとしてきた社会学にとって、MSE は、グローバル化のなか(国境を越えて)移動する人、アイデンティティ、文化生産物、メディアの流れやその関係性を理解するための新しい有用な調査法だといえる。だがマクロな視座から理論化を行う伝統が根強い社会学では、全体的・包括的な社会理論をめざさないマーカスの MSE をどのように用いるのかという問題が生じる。GE のようにマクロな視座からの理論化をめざすのか、あるいはその他の戦略を採るのか、調査者は判断していかなければならない。

実践的には、調査者が移動を経験することで理解が深まり記述をより濃密にできる。その一方で、移動にかかる金銭的・時間的コストの問題が生じる。また、調査者はどの関係性や境界を「複数の」フィールドとして選定し定義するのかという難しい判断をせまられる。さらに、移動を繰り返しつつ現場に深く参与するという困難に直面する。現場に深く関わらなければ、そこに存在する複雑な関係についての「厚い記述」は難しくなる。

### 4. 結論

複数の場所で生じる現象を追跡する調査法は、理論上・実践上の問題を解決することで、社会学的研究においてもグローバル化を理解するための有効な調査法となりうるだろう。

### 文献

- Marcus, George E. 1995, "Ethnography in/of the World System: The Emergence of Multi-Sited Ethnography," *Annual Review of Anthropology*, Vol. 24, 95-117.
- Burawoy, Michael et al. eds., 2000, *Global Ethnography: Forces, Connections, and Imaginations in a Postmodern World*. Berkley: University of California Press.